

【高等学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)
 A: 十分達成できている
 B: おおむね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

学校名 佐賀県立佐賀北高等学校(全日制)

1 前年度 評価結果の概要
 ・本年度の重点目標を達成するために、教職員一人ひとりが意思疎通を図りながら、計画的・組織的に教育活動に努め、さらなる学校活性化のための方策について議論を重ねることができた。
 ・北高ルーブリック評価表を活用し、生徒が自分自身について振り返りをするという試みを実践し、全体的には生徒の自己有用感・自己肯定感の高まりを確認することができた。
 ・新学習指導要領に適切した評価表を作成し、また、探究活動の充実を図るなどキャリア教育の充実を図った。
 ・本校のさらなるパワーアップを目指し、生徒・保護者・地域の期待に応えるために、必要な情報が共有できる体制を整える。

2 学校教育目標
 自主自律と文武両道を重んじる校風の中で、自らの肯定的側面を見出し伸長させることによって、社会の変動に柔軟に対応し、未知の状況を逞しく乗り越え、より良い社会を実現していくために必要な人間力を育成する。

3 本年度の重点目標
 「確かな学力」を目指した授業力の向上
 「進路実現」を目指した自己分析力の育成
 「相互理解」を目指した寛容な心、思いやりの心の醸成

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	達成度(評価)	実施結果	学校関係者評価	
1 ●学力の向上	●授業のさまざまな場面で、主体的・計画的に学習活動に取り組む姿勢を養う。	○「授業で、主体的に学習することができるようになった」と答えた生徒が70%以上。 ○「学習時間を確保し、予習や復習などを計画を立てて勉強することができた」と答えた生徒が70%以上。	・全国模試を通して成績を測定する一方で、指導のポイントを明確にする取組を行う。 ・定期的に志望校調査を行い、進路検討会でその目標を達成するための手だてを明確にする。 ・一定の自宅学習時間を確保させるとともに学習時間確保のためのタイムマネジメントを行わせる。					進路指導部 各教科
	◎他者の考えや意見を聞く機会を設定し、生徒に物事についての多様な考えを身につけさせる。	◎「総合的な探究の時間や各教科で、協働的な活動の取組ができた。」と答えた生徒が70%以上	・総合的な探究の時間を中心に、協働的な取組を積極的にを行い、話す能力、聞く能力を育む。 ・学期末にアンケート調査を実施し、協働的な活動によって得られた知識や新たに見つかった課題などに気づかせる。					進路指導部 各学年
3 ●心の教育	●★生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を育む教育活動	◎★「北高ルーブリックの中で自分の成長が感じられた」と答えた生徒が80%以上 ○★「学校は、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身につける教育活動をおこなっている」と答えた職員80%以上 ○★部活動加入率：90%以上	・北高ルーブリック評価表を活用し、生徒の自己の成長を促す。 ・学校行事、部活動、生徒会活動、校外活動等への積極的参加を促進し、他者と協力して共通の目標を達成する力を養う。 ・SOSの出し方教育を行う。 ・スクールカウンセラーによる講話を行う。 ・生徒や保護者の円滑なカウンセリング利用 ・講演会や国際交流を推進し、多様な価値観に触れる機会を設ける。 ・地歴公民、その他の教科における人権教育の実施を呼びかける。					教務部 生徒指導部(生徒会) 教育相談部 総務部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ重大事案件数：0件 ○「いじめ」防止等について組織的に対応できていると回答した教職員の割合が70%以上	・年2回のアンケート調査の実施 ・アンケート後1週間以内に集計の完成と情報の共有を行う ・覚知の際に各分掌で協力し早期の対応を行う。 ・生徒総会においていじめ撲滅宣言を行い、生徒間での意識の共有を図る。					生徒指導部 (学年主任)
5 ●生徒が自主的・自律的に行動でき、自らの行動に責任を負うことができる指導	○生徒が自主的・自律的に行動でき、自らの行動に責任を負うことができる指導	○「学校は、生徒が自主的・自律的に行動でき、自らの行動に責任を負うことができる指導を行っていると思う」と答えた職員が70% ○「北高生は、生徒が自主的・自律的に行動できている」と答えた生徒70%	・服装や生活について自ら考えさせる指導を行う。 ・校則について生徒会主体で考え遵守する指導を行う。 ・自転車マナーについての指導を行う ・全職員および生徒会と連携し自律した生活を促す。					生徒指導部
	○興味関心の幅を広げ教養を深める中で、豊かな心を育む	○「学校は、読書活動の活性化に努めていると思う」と答えた職員が70%以上 ○「私は、幅広いジャンルの本を読んでいると思う」と答えた生徒70%以上	・新着案内などの掲示場所を増やし、教室でも掲示場所を固定する。 ・新着案内、朝読書指導などクラスでの活動を増やす。 ・クラス図書(図書カゴ)を復活させる。 ・先生方からの紹介図書POP作りを徹底する。 ・文化祭での取り組みを図書委員の主体的なものとする。					図書
7 ●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行 ・保護者への個別の連絡					保健・厚生部
	○心身の健康問題に対する自己管理能力の育成	○健康診断(歯科検診)後の受診率を前年度より5%向上させる ○睡眠時間を十分に取れていると考える生徒50%以上	・睡眠に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行 ・生徒への全体指導と個別指導					保健・厚生部
9 ●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●「定時退勤推進日等の設定、積極的な休取の奨励などによって、長時間労働の縮減・解消に対する意識が高まったと思う」と答えた職員が80%以上	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日、年休取得推進期間の設定 ・部活動休養日の設定 ・PCを使っているアンケートが可能なものは利用する。					教頭
	○教職員の連携促進	○「職員間での意見交換や連携しやすい雰囲気作りができていると思う」と答えた職員が70%以上。	・現状に合った取組を考えながら、行事・企画を精選する。 ・業務の進捗状況の共有に努め、職員間のフォロー体制を強化する。					教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	達成度(評価)	実施結果	学校関係者評価	
○ICTの活用	○ICTを活用した情報収集や情報発信	・「校外の人と必要な情報を共有できるように努めている」と答えた職員が70%	・ホームページ上の学校に関する情報を整理し随時更新する ・中学校説明会用の学校紹介資料を作成する。 ・保護者のアンケートでICTを利用して業務削減を行う。					総務部 主幹

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望